

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた単元構想〈中・国語〉

特別研修員 国語 真庭 孝（中学校教諭）

単元名 価値観を探り、自分の考えを書き表そう『旅への思い』（第3学年） 全6時間計画

単元のねらい

「おくのほそ道」に表れた価値観を探る活動を通して、人間、社会、自然などについて、自分の考えをもてるようにする。

地域の物的資源を活用した単元構想

本単元では、古典教材に表れたものの見方・考え方を価値観として捉え、自分の考えをもてるようにすることをねらいとしています。つかむ過程では、地域の物的資源である、史跡・名勝を導入の工夫として使用し、古典教材と関連付けることで、学習意欲を高められるようにします。さらに、まとめる過程では、自己の成長や変容を自覚させるために、つかむ過程で触れた地域の史跡・名勝にもう一度目を向ける活動を設定し、自己のものの見方・考え方が広がったことを実感できるように構成しました。

過程	主な学習活動	指導のポイント
つかむ（1時間）	<p>1. 単元の課題を把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域の史跡・名勝の写真を見て感想を書き、交流する。 <p>上毛カルタにあるけれど、ただの通学路で、あまり意識したことはない。</p> <p>【旧中山道の杉並木】</p> <p>昔の人も史跡などを見るために旅をしたんだな。何を思って旅をしたのだろう？</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元の課題を決め、学習の見通しをもつ。 <p>「おくのほそ道」に表れている価値観を探り、価値観に対する自分の考えを文章にまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○既習事項を想起したり、友達と話し合ったりしながら、課題解決までの見通しを考える。 	<p>地域の物的資源を活用した導入の工夫</p> <p>地域の史跡・名勝の写真を見せ、感想を交流することで、関心をもたせるようにする。また、史跡等に対する見方という観点で教材文と関連付けることで、古典学習に対して苦手意識をもつ生徒においても、学習の意欲を高められるようにする。</p> <p>学習のつながりを意識させ、意欲を引き出す工夫</p> <p>既習の古典作品で、作品に表れたものの見方・考え方を捉えてきたことに触れ、本単元でもそれを価値観として捉えることとして、学習のつながりを意識させる。</p>
追究する（4時間）	<p>2. 課題を追究する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○旅や生き方についての芭蕉の思いを価値観として捉える。 ○自然や人間の営みに対する芭蕉の見方・考え方を価値観として捉える。 ○表現方法を吟味し、感動の対象を表現しようとする芭蕉の姿勢を価値観として捉える。 ○捉えた価値観を本文や俳句を根拠として引用し、自分の考えを書き表す。 <p>【話し合いによる追究活動】 (なぜ、静けさを蝉の声で表現したか)</p> <p>「住める方は人に譲りて」は芭蕉の旅に出るための準備について書かれた部分である。ここからは、芭蕉が物事を極めるために相当の覚悟をすることができる人物であることが読み取れる。このような価値観は、今の日本人に欠如しているものであると考える……</p> <p>【生徒のワークシートより】</p>	<p>主体的・対話的な学習を行うための工夫</p> <p>現代語訳や補助資料を用意し、必要に応じて利用できるようにすることで、古典学習に対して苦手意識をもつ生徒でも主体的な取組ができるようにする。さらに、内容理解に要する時間を短縮し、価値観を捉える時間を十分に確保できるようにする。</p> <p>価値観を捉えるために、考えるポイントを焦点化し、話し合いによる追究活動が効率的に行えるようにする。</p> <p>学びのつながりの意識と、既習事項を生かす工夫</p> <p>「おくのほそ道」に表れた価値観に対する自分の考えを書き表す際には、それまで捉えてきた価値観を書き込んだワークシートを基に書くことを確認し、学びのつながりを意識させるようにする。</p> <p>既習事項である「グラフや表から読み取れることを引用を交えて書き表す」学習を想起させることで、つながりをもった学習活動ができるようにする。</p>
まとめる（1時間）	<p>3. 単元の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元で学んだことを自分の言葉でまとめる。 ○本単元での学びを生かせる場面について、意見交流をする。 ○学習をした結果、これから地域の史跡・名勝をどのように見ることができそうか考えたことを書く。 ○一般化したことを踏まえながら、単元で学んだことを振り返る。 <p>・芭蕉が悠久であると見ていた自然を私たちが壊している気がする。自然を大切にしていた昔の人々に申し訳ないと思った。</p> <p>・道ばたにある石仏などを風景の一部としか見ていなかったが、由来や地域の人々とのつながりを調べてみたい。</p> <p>【生徒のワークシートより】</p>	<p>地域の物的資源を活用した振り返りの工夫</p> <p>「つかむ」過程で触れた地域の史跡・名勝についても一度考えてみることで、本単元で捉えた価値観によって、自己のものの見方・考え方が広がったことを実感できるようにする。</p>

指導例：価値観を探り、自分の考えを書き表そう
『旅への思い』（第3学年 第1時）

指導のポイント

1 単元の課題を把握する。

○地域の史跡・名勝の写真を見て感想を書き、交流する。

T：地域の史跡・名勝の写真を見てどう思いましたか。

S：地域にもいろいろな史跡があると思ったし、写真で見られておもしろかったです。

S：でも、杉並木は通学路なので、花粉の季節は大変です。

S：花粉は気になるけど、上毛カルタにあるのに由来とか知らないね。

S：二子塚古墳は広いからよく遊んだけど、どのような場所かは考えたことがないな。

S：それぞれ、きっと特別な場所だから、今もあるのだろうけど、あまり気に留めたり、深く考えたりしていないのだな。

T：そうですね。一方で、史跡・名勝を巡り、文学作品として完成させた人がいます。「おくのほそ道」は芭蕉が、東北地方を中心に各地を歩き、完成させた文学作品です。芭蕉はどのような思いをもって各地を訪れたのでしょうか？

S：自分たちとは違う見方や考え方があったのだと思います。

S：史跡・名勝のどんなところを見たかったのか興味が湧きました。

T：それでは、これからの学習で「おくのほそ道」に表れた芭蕉のものの見方や考え方を、価値観として探ってみましょう。

単元の課題 「おくのほそ道」に表れている価値観を探り、価値観に対する自分の考えを文章にまとめよう。

教材文に対して興味をもたせるとともに、地域の物的資源を生かす工夫

○紀行文の学習に対して関心をもたせるとともに、学習前後のものの見方・考え方の変容を見取るために地域の史跡・名勝の写真を活用する。

学習内容の見通しをもたせる工夫

○生徒とのやり取りの中で、学習課題を設定することで、課題を明確にするとともに、課題解決に向けての意識を高める。

学習のつながりを意識させるための既習事項の想起

○第2学年の古典教材で、どのようなものの見方・考え方に触れてきたかを想起させ、本単元の学習とのつながりをもたせる。

2 本時のめあてをつかむ。

めあて 芭蕉や『おくのほそ道』について知り、学習の見通しをもとう。

○「おくのほそ道」について、旅程図や教材文を見ながら確認する。

○「旅立ち」「平泉」「立石寺」を読み、訪れた場所の紹介文だけではなく、芭蕉の思いが書かれていることに気付く。

主体的な学びにさせるための工夫

○単元の学習計画をグループで考えさせ、見通しを共有させることで、自分で立てた計画に沿って学んでいくのだという気持ちをもたせる。

3 学習の見通しをもつ。

○芭蕉と「おくのほそ道」について知る。

○既習事項を想起したり、友達と話し合ったりしながら、課題解決までの見通しを各自で考える。

T：今までの古典学習で、「平家物語」では「無常観」という価値観に触れたと思います。枕草子ではどのようなことが書かれていたか？

S：清少納言の考える季節ごとの趣のある時間や、清少納言の目に留まったものなどが書かれていました。

T：やはり古典作品に表れた筆者の価値観を捉えることができそうです。ではどのように学習していきますか？

S：一つの章段から価値観を捉えるのに、1時間は欲しいと思います。しっかり価値観を捉えてから自分の考えを書きたいです。

課題解決への意欲を高めさせるための振り返り

○学習に対する思いを記述させることで、本時の学習で立てた計画に沿い、単元の学習で、何をしていきたいかを自覚させる。

4 本時のまとめ・振り返りをする。

○これからの学習の意欲を中心に、ワークシートにまとめる。

☆既習事項を生かして、「おくのほそ道」の一節を引用した文章を書いてみたい。

☆「おくのほそ道」に表れた価値観はどのようなものかを捉えたい。

指導例：価値観を探り、自分の考えを書き表そう
『旅への思い』（第3学年 第6時）

指導のポイント

1 本時のめあてをつかむ。

○前時に、「おくのほそ道」における芭蕉の価値観をまとめたことを振り返る。

めあて 単元全体を振り返って、価値観を捉えることで学んだことや、今後に生かせそうなことを考えよう。

単元を通して学んだことの共有

○ワークシートを基に、単元全体を通して、どのようなことを捉え、どのようなことを考えたかを振り返らせることで、学びを自覚させる。

2 単元で学んだことを確認する。

○5/6時に書いた文章を再度読み合い、芭蕉が史跡・名勝に対して強い思いをもっていたことを確認する。

S：平泉では、目の前の風景と歴史上の出来事を重ね合わせて見ている。

S：自然と比べて人間の営みのはかなさに涙を流していた。

S：立石寺では静けさと美しい景色に強く心を打たれていた。

S：風景の書き表し方や、静けさを伝えるために蝉の声を使う表現など、表現方法がすばらしかった。

学んだことを一般化するための工夫

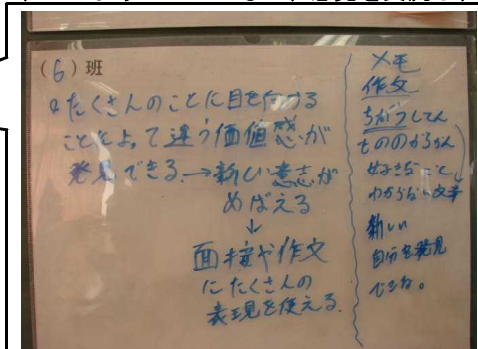
○学んだことを今後の生活にどう生かせるかをグループで話し合わせ、学級全体で共有することで、学びのつながりを意識させ、学びを生活の中で生かそうという意識を高められるようにする。
○捉えた価値観を踏まえて、もう一度地域の史跡・名勝について考えることで、自己の成長と変容を実感できるようにする。

3 学んだことを一般化し理解する。

○本単元で学んだことが、どのように生かせるか、意見を交流し、共有する。



【学んだことをどう生かせるか発表する生徒】



○単元の学習を終えた今、地域の史跡や名勝をどのように見ることができか考えたことを書く。

S：杉並木の杉が少なくなり、建物が増えたことに歴史の流れを感じる。昔の姿を想像したり、由来などを調べてみたい。

S：芭蕉が悠久であると思っていた自然を私たちが壊している気がする。自然を大切にしていた昔の人々に申し訳ないと思った。

S：道端にある石仏などを風景の一部としか見ていなかったが、由来や地域の人々とのつながりを調べてみたい。

学びのつながりを実感させる工夫

○単元全体で学んだことが、今後の学習や生活で活用できることを再確認し、次の学びや自分のものの見方・考え方に生かせるようにする。

4 単元全体のまとめ・振り返りをする。

○一般化したことを踏まえながら単元を通して学んだことや感じたことを自分の言葉でノートにまとめる。

☆通学路にある史跡の目に見える部分だけでなく、由来などにも目を向けてみたい。

☆思いを伝えるために、表現を選び抜くという姿勢を今後の学習に生かしたい。

☆古文でも引用をすることができたので、引用を今後の学習でも生かしていきたい。

国語科学習指導案

令和元年10月 第3学年 指導者 真庭 孝

I 単元名 価値観を探り、自分の考えを書き表そう「旅への思い」

II 学習指導要領上の位置付け

(1) 長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うこと。

【知識及び技能 (3) 我が国の言語文化に関する事項イ】

(2) 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと。

【思考力、判断力、表現力等 C読むことエ】

(3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとすること。

【学びに向かう力、人間性等】

III 目 標

「おくのほそ道」について、考えたことを伝え合う活動を通して、次の事項が身に付けられるよう指導する。

(1) 「おくのほそ道」の一節や句を引用し、文章を書くこと。

(知識及び技能)

(2) 「おくのほそ道」に表れたものの見方や考え方を捉え、自分の意見をもつこと。

(思考力、判断力、表現力等)

(3) 「おくのほそ道」に表れたものの見方や考え方を、自分のものの見方や考え方に生かして、文章にまとめようとする事。

(学びに向かう力、人間性等)

IV 指導計画 ※別紙参照

V 本時の展開 (1/6)

- ねらい 地域の史跡・名勝を見たり、芭蕉や「おくのほそ道」について知ったりする活動を通して、学習の見通しをもつことができるようにする。
- 展開

学習活動 (分)	○ : 留意点	点線囲 : 評価	☆ : 振り返りの子供の意識
1 単元の課題を把握する。(10分) ○地域の史跡・名勝の写真を見せ、興味をもたせるとともに、印象を書かせる。 ○写真の印象を交流させ、普段はあまり気に留まらない存在であることに気付かせる。 ○「おくのほそ道」は芭蕉が史跡・名勝を訪れて完成させた作品であることを紹介し、自分たちの史跡・名勝への印象との比較から作品に興味を向けさせる。			
単元の課題 「おくのほそ道」に表れている価値観を探り、価値観に対する自分の考えを文章にまとめよう。			
○「おくのほそ道」に表れたものの見方や考え方を価値観と捉え、捉えた価値観について自分の意見をもつ活動であることを伝える。			
<hr style="border-top: 1px dashed black;"/>			
2 本時のめあてをつかむ。(15分)			
めあて 芭蕉や「おくのほそ道」について知り、学習の見通しをもとう。			
○「おくのほそ道」の概要について、旅程図や教材文を見ながら確認する。 ○「旅立ち」「平泉」「立石寺」を読ませ、芭蕉の思いが強く表れていることに気付かせる。			
3 学習の見通しをもつ。(15分)			
○これまで学んだ「平家物語」や「枕草子」、「徒然草」などで知った、ものの見方や考え方を想起させる。 ○グループで課題解決までの見通しを考えさせる。 ○考えたことを学級全体で共有し、単元全体の学習のイメージをもたせる。			
4 本時のまとめ・振り返りをする。(10分)			
○本単元でどのような学習をしていくか、また、何を学んでいきたいかを、ワークシートにまとめさせる。 ☆既習事項を生かして、「おくのほそ道」の一節を引用した文章を書いてみたい。 ☆「おくのほそ道」に表れた価値観はどのようなものかを捉えたい。			
単元の課題解決に向けて意欲的な記述をしている。 <ワークシート(3)>			

V 本時の展開 (5/6)

- ねらい 「おくのほそ道」に表れた価値観を捉え、本文の一節や句を引用しまとめる活動を通して、価値観に対する自分の意見をもつことができるようにする。
- 展開

学習活動 (分)	○ : 留意点	点線囲 : 評価	☆ : 振り返りの子供の意識
1 本時のめあてをつかむ。(5分) ○前時の振り返りを読み、本時の見通しをもつ。 ○本時のめあてを伝える。			
めあて 「おくのほそ道」に表れた価値観を、本文の一節や句を根拠として引用してまとめ、自分の考えを文章に書き表そう。			
2 課題を個別に追究する。(25分) ○「旅立ち」「平泉」「立石寺」の学習から、どのような価値観を捉えてきたか確認させる。 ○「旅立ち」「平泉」「立石寺」から、特に印象に残ったものを中心に一つ、または、複数を選んで価値観をまとめさせる。 ○捉えた価値観について書く文章には、本文の一節や句を根拠として引用するように伝える。 ○結論の部分に、捉えた価値観に対してどのように考えるかを記述させる。			
3 友達との交流で、課題を追究するための考えを確認し合い、新たな気付きをもつ。(15分) ○個でまとめたものを読み合わせ、意見や感想を交流させる。 ○交流の中で自分の考えが変わったり、深まったりしたことを、自分の文章に加筆させる。			
「おくのほそ道」に表れた価値観を、本文の一節や句を根拠として引用してまとめ、自分の考えを文章に書き表している。 <ワークシート(1)(2)>			
4 本時のまとめ・振り返りをする。(5分) ○価値観に対して考えを書いたことや、交流の結果、考えが広がったり、深まったりしたことを中心に記述させる。 ☆「おくのほそ道」の一節や句を根拠として、価値観をまとめることができた。 ☆芭蕉の価値観は現代にもつながるものであり、自分の中に取り入れたいと思った。 ☆現代文を引用する学習を基に、古文を引用した文章を書くことができて自信が付いた。			

V 本時の展開（6／6）

- ねらい 単元全体を振り返る活動を通して、「おくのほそ道」で捉えた価値観や考えたことを今後の生活に生かすことができるようにする。
- 展開

学習活動（分）	○：留意点	点線囲：評価	☆：振り返りの子供の意識
1 本時のめあてをつかむ。（5分）	○前時に「おくのほそ道」における芭蕉の価値観をまとめたことを振り返らせる。 ○本時のめあてを伝える。		
めあて 単元全体を振り返って、価値観を捉えることで学んだことや、今後に生かせそうなことを考えよう。			
2 単元で学んだことを確認する。（15分）	○本単元で、どのような価値観を捉えてきたか確認させる。 ○5／6時に書いた文章を再度読み合い、芭蕉が史跡・名勝に対して強い思いをもっていたことを確認させる。		
3 学んだことを一般化し理解する。（20分）	○本単元で学んだことが、どのように生かせるか、意見を交流させ、共有させる。 ○単元の学習を終えた今、地域の史跡・名勝をどのように見ることができるか考えたことを書かせる。		
価値観を捉えることで学んだことや、今後に生かせそうな場面について考えている。 <div style="text-align: right;">＜発言・記述(3)＞</div>			
4 単元全体の振り返りをする。（10分）	○一般化したことを踏まえながら、単元全体を通して学んだことや感じたことを自分の言葉でノートにまとめさせる。 ☆通学路にある史跡の目に見える部分だけでなく、由来などにも目を向けてみたい。 ☆思いを伝えるために、表現を選び抜くという姿勢を今後の学習に生かしたい。 ☆古文でも引用をすることができたので、引用を今後の学習でも生かしていきたい。		

指導計画 国語科 第3学年 単元名 価値観を探り、自分の考えを書き表そう「旅への思い」(全6時間計画)

目標	<p>「おくのほそ道」について、考えたことを伝え合う活動を通して、次の事項が身に付けられるよう指導する。</p> <p>(1) 「おくのほそ道」の一節や句を引用し、文章を書くこと。 (知識及び技能)</p> <p>(2) 「おくのほそ道」に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の意見をもつこと。 (思考力、判断力、表現力等)</p> <p>(3) 「おくのほそ道」に表れたものの見方や考え方を、自分のものの見方や考え方に生かして、文章にまとめようとする事。 (学びに向かう力、人間性等)</p>		
評価規準	<p>(1) 「おくのほそ道」の一節や句を引用し、文章を書いている。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)ア(イ)】</p> <p>(2) 「おくのほそ道」に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えを言葉に表している。 【C読むこと(1)エ】</p> <p>(3) 粘り強く芭蕉のものの見方や考え方を捉え、学習の見通しをもって自分の考えを言葉に表そうとしている。 【国語への関心・意欲・態度】</p>		
過程	時間	☆振り返り(意識)	◇評価項目 <方法(観点)>
つかむ	1 ○地域の史跡・名勝を見たり、芭蕉や「おくのほそ道」について知ったりする活動を通して、学習の見通しをもつことができるようにする。 「単元の課題」 「おくのほそ道」に表れている価値観を探り、価値観に対する自分の考えを文章にまとめよう。 芭蕉や「おくのほそ道」について知り、学習の見通しをもとう。	☆既習事項を生かして、「おくのほそ道」の一節を引用した文章を書いてみたい。 ☆「おくのほそ道」に表れた価値観はどのようなものを捉えたい。	◇単元の課題解決に向けて意欲的な記述をしている。 <ワークシート(3)>
追究する	1 ○図や補助資料を参考に教材文を読む活動を通して、芭蕉の旅に対する思いを捉えることができるようにする。 旅に対する芭蕉の思いに着目して、「旅立ち」に表れた価値観を捉えよう。	☆芭蕉が過去の詩人の生き方にあこがれ、自分の生き方を旅の中に求めていることが分かった。 ☆芭蕉が無常であることに、心を引かれていることが分かった。	◇芭蕉の旅への思いや生き方についてまとめている。 <ワークシート(2)>
	1 ○図や補助資料を参考に過去の出来事を把握したり、人間関係を整理したりしながら、「平泉」を読む活動を通して、自然と人間それぞれに対する芭蕉の見方について捉えることができるようにする。 自然と人間の対比に着目して、「平泉」に表れた価値観を捉えよう。	☆芭蕉が目の前に広がる景色だけでなく、その場所の史実にも目を向けていることが分かった。 ☆芭蕉が自然は変わることがなく、人の世は、はかないものであると捉えていることが分かった。	◇自然と人間それぞれに対する、芭蕉の見方についてまとめている。 <ワークシート(2)>
	1 ○「立石寺」を風景の描写や聴覚表現に着目して読む活動を通して、静けさに対する思いや、表現を選ぶ芭蕉の姿勢を捉えられることができるようにする。 表現方法に着目して、「立石寺」に表れた価値観を捉えよう。	☆芭蕉が、俗世から切り離された静けさと、自然の美しさに心を引かれていることが分かった。 ☆芭蕉が立石寺の静けさに感動し、静けさへの思いを伝えるために、表現を工夫していることが分かった。	◇静けさに対する思いや、表現を選ぶ芭蕉の姿勢についてまとめている。 <ワークシート(2)>
	1 ○「おくのほそ道」に表れた価値観を捉え、本文の一節や句を引用しまとめる活動を通して、価値観に対する自分の意見をもつことができるようにする。 「おくのほそ道」に表れた価値観を、本文の一節や句を根拠として引用してまとめ、自分の考えを文章に書き表そう。	☆「おくのほそ道」の一節や句を根拠として、価値観をまとめることができた。 ☆芭蕉の価値観は現代にもつながるものであり、自分の中に取り入れたいと思った。 ☆現代文を引用する学習を基に、古文を引用した文章を書くことができ自信が付いた。	◇「おくのほそ道」に表れた価値観を、本文の一節や句を根拠として引用してまとめ、自分の考えを文章に書き表している。 <ワークシート(1)(2)>
まとめる	1 ○単元全体を振り返る活動を通して、「おくのほそ道」で捉えた価値観や考えたことを今後の生活に生かすことができるようにする。 単元全体を振り返って、価値観を捉えることで学んだことや、今後生かそうなことを考えよう。	☆通学路にある史跡の目に見える部分だけでなく、由来などにも目を向けてみたい。 ☆思いを伝えるために、表現を選び抜くという姿勢を今後の学習に生かしたい。 ☆古文でも引用をすることができたので、引用を今後の学習でも生かしていきたい。	◇価値観を捉えることで学んだことや、今後生かそうな場面について考えている。 <発言・記述(3)>